

2005.3.2 IODP 部会事務局

日時：平成17年2月24日（木） 14:00～16:30

場所：海洋研究開発機構東京事務所

出席者：執行部 荒井・伊藤・木戸・佐柳・巽 新執行部（候補） 鈴木・阿波根
オブザーバー：田中企画官・里村 事務局 山川・喜多河・西川

【コンソーシアム全般について】

- ・平成17年度総会を4月3日に実施する方向で、陸上掘削部会に打診する。
- ・総会の開催に合わせ、関係者の MEXT 訪問を検討。

【専門部会・国際パネル対応について】

- ・1～2月に開催された、事前調査検討専門部会、孔内計測 WG、情報システム WG、科学計測専門部会の報告があった。
- ・年度末までの専門部会・WG の開催予定が確認された。3月は、地下圏微生物、地球環境、地球内部、技術開発推進の各専門部会を開催予定。
- ・徳山部会長を代理し、事務局から、ILP へ委員を派遣しなかった経緯と、SPC 代理委員の選任について説明があった。
- ・SPC 事前打合せは、IODP 航海の共同主席研究者候補の推薦（伊藤代理委員中心に専門部会と協力して調整）、技術開発関連の議題について、を中心に、メールベースで関係者が協議する。可能ならば、現地で委員が集まり、事前打合せを行う。
- ・国際パネル委員の事務手続きについて、周知徹底する（J-DESC の依頼と AESTO の出張手続きの区別の明確化を図る）。
- ・国際パネル共同議長の推薦方法について、次回徳山部会長・事務局から原案を提示する。

【国際対応について】

- ・韓国 IODP 関係者の来日（3月6日～10日）について、現状が報告された。3月9日の関係者の懇談会には、執行部員も可能な限り出席して欲しい。

【広報関連】

- ・木戸執行部員より、IODP 大学&科学館キャンペーンの報告と今後の展開について提案があった。沖縄でのキャンペーンの成果として、琉球大学がコンソーシアム加入の意向を表明したことは評価できる。平成17年度は、深海掘削委員会での指摘を踏まえ、名称の変更、効率的な実施形態の検討等を進め、引き続きキャンペーンを実施する。
- ・06年度に京都で開催される ISC で、ワークショップを開催する方向で検討を進める。木戸執行部員が京大成瀬氏と連絡を取り、調整する。
- ・J-DESC として持つ広報ツールの整備を検討する。あわせて、JAMSTEC/CDEX との広

報対応の仕分けを検討する。

- ・ 広報については、新執行部で継続検討。

【IODP 乗船研究関連】

- ・ 荒井執行部員より、Procupine Basin 航海の乗船研究者の選考結果が報告された。7名の乗船研究者と、1名の主席研究者の推薦を行った。
- ・ 乗船研究者の応募は少なく、状況は厳しい。更なる専門部会等の協力や、積極的な航海情報の開示などが必要。今後、乗船研究者が潜在的にどのくらいいるか、関連研究者・学生の数を調査する。
- ・ 今後、乗船研究者の推薦数が、IO から提示される日本枠を下回った場合、その枠が放棄となる可能性もある（IO 会議で検討されている“フレキシビリティ”については主張する）。十分な乗船研究者を推薦することは、わが国の責任を果たすことでもある。
- ・ 主席研究者の推薦・選任については、SSEPs や SPC でのプロポーザル検討作業の流れにあわせ、適切な時期に推薦、本人への連絡等ができるよう配慮する。その中で、J-DESC としても、候補者への説明責任（単に事務的に CV を集めるだけではない）を果たせるような体制としたい。今後、IODP-MI、SPC 委員等とも調整してゆく。
- ・ 上記の観点からも、J-DESC と SPC 委員の綿密な連絡は不可欠であるため、IODP 部会執行部に、SPC 担当者を置く。
- ・ ポスドクの乗船に当たっては、担当教官の承認を得るなど、慎重に対応する。
- ・ 乗船研究者の推薦作業、IO との連絡業務については、執行部の引継ぎに先行し、3月に荒井執行部員から阿波根氏に引き継ぐ。新執行部では、IO との窓口を阿波根氏とし、国内での呼びかけ・調整業務は別途執行部員を指名する予定。

【その他】

- ・ 鈴木新部会長（4月より就任）が紹介された。また、鈴木新部会長から、就任時には、北大の阿波根氏を部会長補佐に指名する意向が示された。
- ・ 鈴木新部会長から、新執行部員の候補が示された。3月第1週を目途に、人選を終了させる。なお、現執行部からは、荒井・佐柳・木戸・徐・巽の5名が留任する。
- ・ 4月以降の部会事務局は、北大と AESTO に置く。
- ・ 次回執行部会は、3月24日（木）14：00 から、JAMSTEC 東京事務所で開催する。